

令和4年度 スポーツ庁委託事業

「地域運動部活動推進事業」成果報告書

箕面市教育委員会 児童生徒指導室



1

報告内容

- 1 実践研究を希望した背景について
- 2 令和4年度地域運動部活動推進事業を受けて
 - ・モデル実施に向けて
 - ・モデル実施状況
- 3 アンケート結果について
- 4 取り組みを振り返って

2

1 実践研究を希望した背景について



箕面市について

■学校数

中学校 6校
小中一貫校 2校

■生徒数

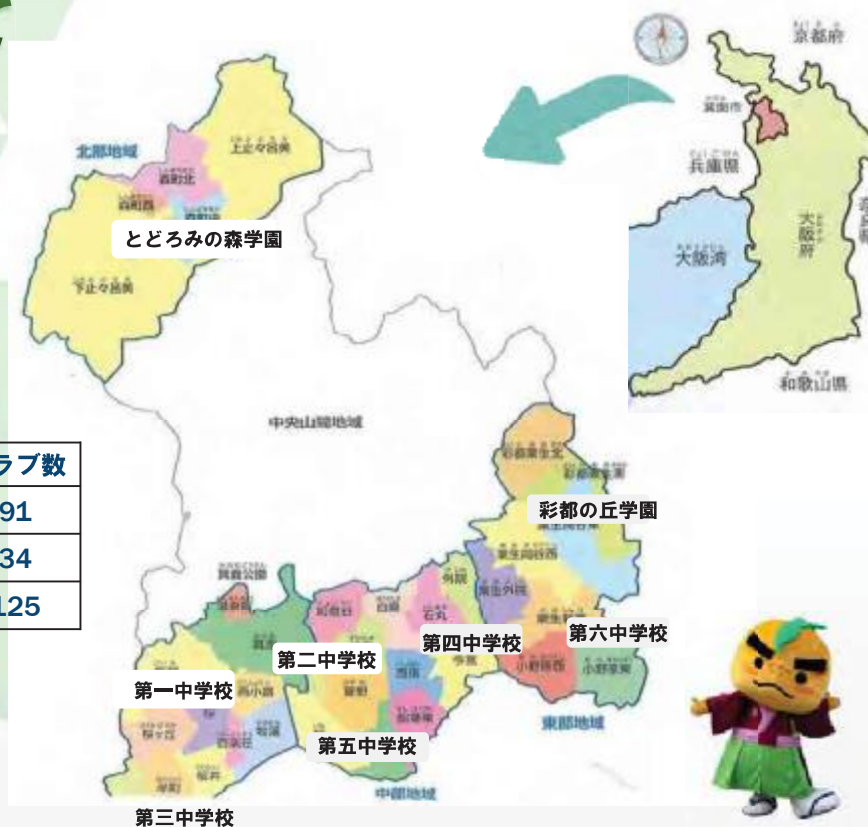
3816人

■クラブ数

	種目数	クラブ数
運動部	13	91
文化部	11	34
合計	24	125

■加入率

87.3%



実践研究を希望した背景



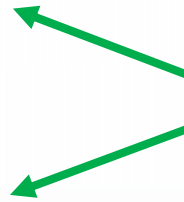
【子ども】

- ・ やりたい種目が進学先がない（創部希望→顧問不足で対応できない）
- ・ 専門的な指導を受けたい（部活動顧問が専門的な知識がない）

【教員】

- ・ 働き方改革
- ・ 技術指導ができず、部活動顧問として困っている
- ・ 技術指導ができて、負担に感じている教員
（大会審判、休日出勤、生徒、保護者からの要望・期待等）
- ・ 異動に伴う顧問の配置の難しさ（持続可能ではない）

ミスマッチ



5

令和3年度から課題解決に向けて

「部活動の在り方検討プロジェクト会議」にて検討。

【構成メンバー】 中学校校長＋副校長 4名
児童生徒指導室 3名

【目的】 部活動の地域移行を速やかに推進する

【協議内容】

- ・ 持続可能な部活動と教員の負担軽減の両方を実現できる改革について
- ・ 休日部活動の段階的な地域移行について
- ・ 拠点校における実践研究



関係団体との連携～地域移行推進にあたって、モデル拠点校の選定方法～

箕面市教育委員会とスポーツ振興、健康福祉を担う「保健スポーツ室」で連携。運営団体を確保するための協議を重ね、箕面市体育連盟を紹介される。

箕面市体育連盟との連携・協議
箕面市体育連盟：会長（ソフトボール協会）
箕面市体育連盟：理事長（テニス協会）
協会の数、指導が可能な人材の把握、学校の部活動の数や参加生徒数などを共有

人材確保が可能なことから箕面市体育連盟が運営主体として候補となる。体育連盟が運営する際に指導者の人材確保ができる種目は**テニス、ソフトボール**が可能。

部活動の在り方プロジェクト会議にて、国の情報を共有

プロジェクトのメンバーである校長・副校長の所属校にて実践研究することに決定

部活動の課題を克服するため、**第一中学校、第三中学校、彩都の丘学園**に決定

部活動地域移行事業について理解を得るために**第一中学校、第三中学校、彩都の丘学園**の生徒、保護者向けに、案内（4月）説明会（6月）を開催。
6月と令和5年の1月に意識調査と課題検証アンケート実施。



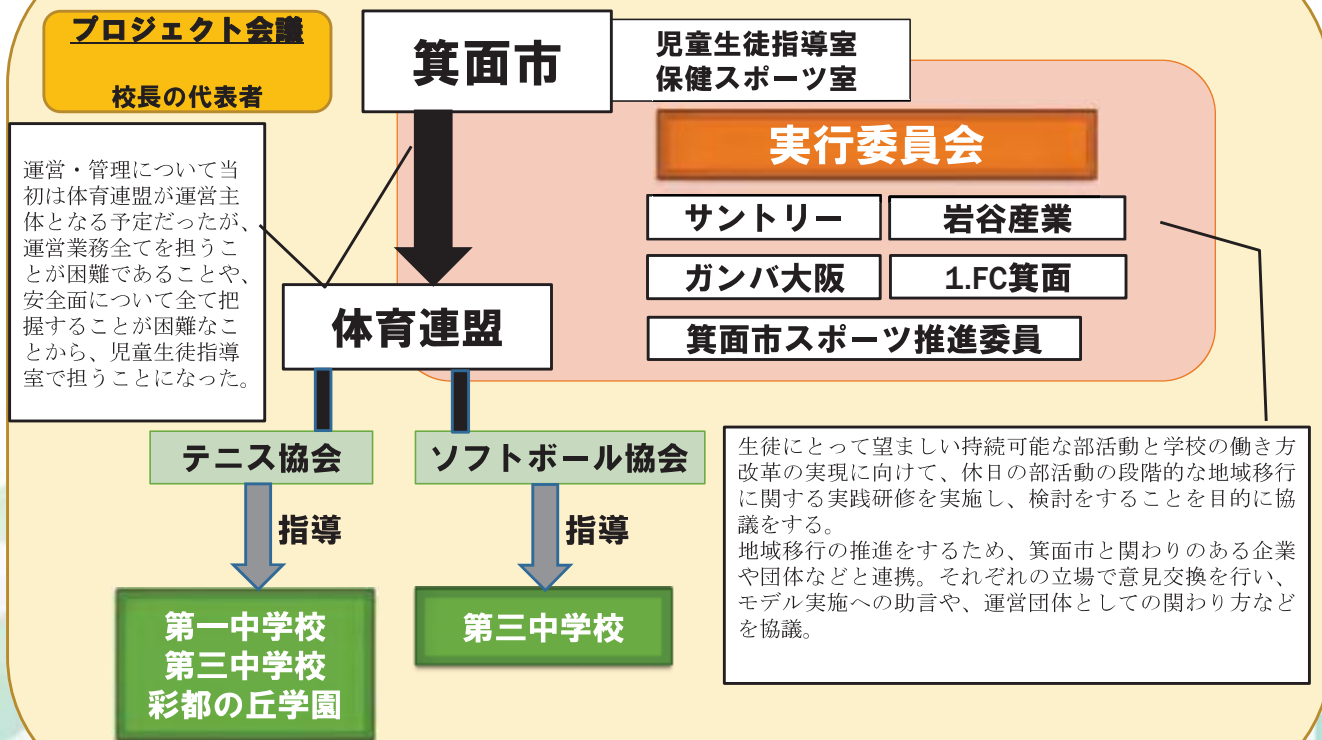
7

2 地域運動部活動推進事業を受けて



8

令和4年度 地域運動部活動推進事業 体制



9

実行委員会

【構成メンバー】箕面市体育連盟

サントリーホールディングス（株）

岩谷産業（株）陸上部

（株）ガンバ大阪

1.FC箕面（サッカー）

箕面市スポーツ推進員協議会

【目的】

生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現に向けて、休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研修を実施し検討する。



10

■モデル実施に向けて

月	内 容
4月	第1回実行委員会、体育連盟との打ち合わせ、
5月	第1回プロジェクト会議、生徒・保護者対象説明会
6月	第2回プロジェクト会議、アンケート実施、体育連盟との打ち合わせ
7月	体育連盟との打ち合わせ、第2回実行委員会、第3回プロジェクト会議
8月	体育連盟との打ち合わせ、モデル実施校との打ち合わせ
9月	体育連盟との打ち合わせ
10月	第4回プロジェクト会議、体育連盟との打ち合わせ
11月	各中学校へ進捗説明
12月	第5回プロジェクト会議、第3回実行委員会
1月	アンケート実施、体育連盟との打ち合わせ、第4回実行委員会

関係団体、学校などと綿密な打ち合わせや協議を実施する必要がある。

次年度以降についての協議

地域クラブ開始

11

「地域が主体の活動」とは？

学校の施設や道具を使うのみ
学校に教職員がいなくても運営できる活動

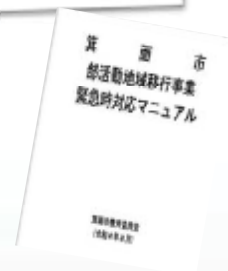
...ということは、

- 【連絡方法】 → 学校を通さない
- 【鍵】 → 合鍵を作成、鍵の管理
- 【トラブル・ケガ等】 → 指導者が対応



体育連盟（スポーツ協会）の指導者によるクラブの指導と、施設管理をするための支援について

- 実施校の活動場所・時間の連絡調整
- 用具の確保
- テニスコートの門扉、部室の鍵の作成
- 子どもの参加申込書・同意書の取りまとめ
- 子どもの安全保険加入手続き
- 救急セット・熱中症対策セットの配布
- 指導者用緊急対応マニュアルの作成
- 連絡、出欠簿の作成
- 指導主事による見学、指導内容のチェック
- 名札の作成



学校を介さず、指導者のみで実施するための支援として、運営事務局が準備。指導者と共に地域クラブを実施するにあたり、作成。



支援①活動場所・時間／道具

■活動場所・時間（各校グラウンド、テニスコート）

【事務局】

- ・各校と活動場所・時間を調整
- ・体育連盟に予定の確認依頼→確認後、決定
- ・活動予定表の作成
- ・変更等の調整についても、各校と体育連盟と連絡を取り合いながら調整

■使用する道具等

【クリニックでの道具の活用について】

- ・基本的に、各校の道具（消耗品等）を使用
- ・箕面市体育連盟は、練習で必要な道具等を持参可



支援④連絡、出欠確認について（BANDアプリの活用）

BANDへの登録のお願い

クリニック（地域クラブ）では、練習についての連絡や出欠確認、雨天による中止等について情報共有する手段としてBANDを活用します。利用目的、使用方法をご確認の上、対応いただけましたら、保護者御家族（兼参加申込者）にご記入いただきますようお願いいたします。また、下記QRコードを読み取っていただき、手順に従って登録作業をお願いいたします。

BANDとは？
グループのためのコミュニケーションアプリで、BANDはスポーツチームや学校・PTA、会社、部活などさまざまなグループで利用しています。

■利用目的・利用方法等について

事務系・指導者から

- 練習についてのご案内
- 出欠確認
- 雨天等による中止連絡
- 情報共有

使用する機能は、参加者・指導者からの投稿（掲示板、スケジュール）と、参加者からはスケジュールに掲載された練習への出欠の回答するのみです。個人間の連絡や文通ややり取りはできません。（参加者からの投稿やトーク、メンバーの招待等、利用できないように設定されています。）

参加者から

- 出欠確認に関する回答

※スマートフォンアプリ、PCブラウザ版やガラケー、タブレットなどさまざまなデバイスでご利用いただけます。
※電話番号、メールアドレス、LINEアカウントでの会員登録が可能です。
※保護者が登録してください。



支援⑤指導主事による見学、チェック

担当者以外の指導主事もクリニックの様子を見学し、指導方法、指導内容、子どもの様子等についてチェックする。



良かった点や改善点について出し合い、より良い地域クラブのあり方について意見交流する。

各担当校の学校協議会にて、情報共有する。

クリニック 見学シート

見学日	
学校名	
競技名	
担当者名	
参加人数	

※指導について

メニュー	
回し方	
言葉遣い	
声かけ	
雰囲気	

※子どもの様子

表情	
満足感	
積極性	

※その他

令和4年度 モデル実施状況（9～1月）

【テニス】7～8回 【ソフトボール】9回実施

■テニス

午前：9:00～12:00 午後：13:00～16:00

場所		一中・三中(合同)		彩都	
		一中	三中	彩都	彩都
時間		午前	午後	午前	午後
9月3日	土	女子	男子	女子	男子
10月10日	祝・月	—	—	—	—
10月29日	土	女子	男子	女子	男子
11月3日	祝・木	男子	女子	男子	女子
11月12日	土	女子	男子	女子	男子
12月3日	土	男子	女子	男子	女子
12月10日	土	女子	男子	女子	男子
12月17日	土	男子	—	男子	—
1月14日	土	—	—	—	—
1月21日	土	子	子	子	子
1月28日	土	—	—	—	—

- ・10月10日はスポーツカーニバルと重なり、中止
- ・12月17日の午後は雨天で中止
- ・1月14日は雨天で中止 ・1月28日は降雪で中止

■ソフトボール

		時間
9月3日	土	9:00～12:00
10月8日	土	13:00～16:00
11月3日	祝・木	9:00～12:00
11月12日	土	9:00～12:00
11月19日	土	13:00～16:00
12月3日	土	9:00～12:00
12月10日	土	9:00～12:00
12月24日	土	9:00～12:00
1月14日	土	—
1月22日	土	—
1月28日	土	9:00～12:00

- ・1月14日は雨天で中止
- ・1月22日は大会により中止

19

■モデル実施校

テニス

第一中・第三中学校
彩都の丘中学校

ソフトボール

第三中学校

モデル実施対象者／部活動加入生徒全員
200人／3,333人

※全体の6%の生徒がモデル対象

部活動加入生徒数（学校・部活動別内訳）

		一中	とどろみ	二中	三中	四中	五中	六中	彩都	合計
テニス	男子	36	13	18	44	38	15		36	200
	女子	19	20		21		31		30	121
ソフトテニス	男子							16		16
	女子					25		12		37
バスケ	男子	35	15	33	26	42	38	30	24	243
	女子	23	16	36	19	32	25	16	27	194
サッカー		22	23	26	28	31	17	18	22	187
バドミントン		39	25	26	55	41	35	48	36	305
バレーボール	男子	33		14	35	35	34	20		171
	女子	33		31	22	36		27	16	165
野球		29	14	11	20	27		16	20	137
卓球		33	27	23	46	66		19		214
水泳				16	23	26	30	17		112
陸上		40		34	31	35	41	37	19	237
ハンドボール	男子						30		9	39
	女子									0
ソフトボール				14			29			43
剣道						13			22	35
ダンス		36			26			29	23	114
美術		36		17	32	38		17	11	151
吹奏楽		72		40	27	57	32	49	33	310
演劇					28					28
科学		22						36	14	72
コンピュータ			11				24			35
茶華道				19		15			9	43
囲碁将棋		10								10
技術・工作		14	25			19	25			83
料理・手芸		12						4		16
経営学			13							13
人権・科学サークル				2						2

20

	モデル実施校	参加人数(実人数)	指導者数
テニス	第一中・第三中(女子)	26人	2人/1回
	第一中、第三中(男子)	46人	2人/1回
	彩都の丘学園(女子)	19人	2人/1回
	彩都の丘学園(男子)	23人	2人/1回
ソフトボール	第三中学校	14人	2人/1回
合計		128人	延べ78人

モデル実施対象者/部活動加入生徒全員
128人/200人

テニスについては、大会と重なって参加できない生徒もいた。

21

活動の様子



22

見学した指導主事から報告・感想

－ 指導について

- ・常に声をかけていて、やわらかい雰囲気があった。
- ・気になる言葉遣いがあった。
- ・アドバイスがわかりやすかった。
- ・話が長すぎる。
- ・少しネガティブな言葉を使うところが気になる。
- ・優しい言葉がけで、ていねいに対応していた。
- ・メリハリのきいた指導をしている。

－ 子どもの様子について

- ・もっと上のレベルを求めている感じだ。
- ・ゲーム形式の練習は楽しそうだった。
- ・うまくいかなかった時、子どもから指導者に聞いて教えてもらう姿が見られた。
- ・指導が具体的で満足度は高い。
- ・習熟レベルを見ながら指導していた。

－ その他

- ・ボールがあまりよくない。ボールが足りない。
- ・出欠確認を指導主事をお願いしてきた。
- ・出席予定で来ていない生徒への連絡に手間取り、練習開始が15分ほど遅れた。



3 アンケート結果について



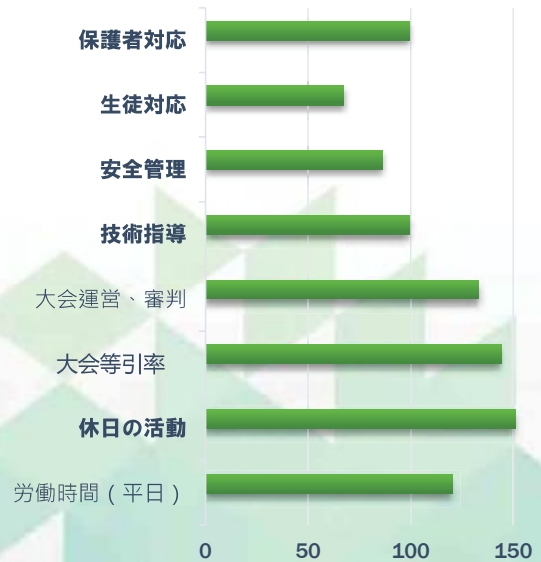
部活動地域移行実行委員会・学校（教員）アンケート

休日の部活動が負担に感じることがある **81%**

※教員アンケート（R4年6月実施）から

Q:部活動で負担に感じることが何か。（人）

※教員アンケートから



【部活動地域移行実行委員会の意見】

- 技術指導だけで良いのか。それ以外もとなると体育連盟では難しい。
- 責任の所在をはっきりさせなければならない。
- 指導者の派遣は、有償でないと持続可能でなくなる。

【教員アンケート】

- 教職員の**精神的・身体的負担**が大きい。
- 部活動のために勤務時間内に教材研究ができず、**時間外勤務**が当たり前になっている。
- 部活動はほぼ**教師のボランティア**で成り立っていることを理解してほしい。
- 生徒指導面や安全面で問題が起こった際に顧問の不在を問われることは本当でないのか。
- **施設管理から生徒指導、事務仕事まで**技術指導以外のクラブ雑務時間が多い。
- **専門でない**部活指導はとても難しい。

保護者・生徒のアンケート

部活動の指導者は専門的な指導をできた方が良いと思いますか。 **84%**

※教員アンケート（R4年6月実施）から

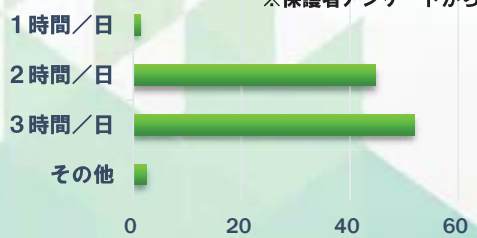
Q:クリニックに期待されることがあるか。（%）

※保護者アンケートから



Q:クリニックの時間はどれくらいがふさわしいか。（%）

※保護者アンケートから



【保護者】

- 適度な運動ができ体力がつく。
- 専門的な指導をしてほしい。
- クリニックでレベルアップを図り、平日の練習メニューも考えてもらうなど、子どもたち主体でも上手に練習を回していけるよう指導してほしい。
- 先生の負担が減るのはいいことだと思う。
- グランド練習が週2回。用具も不足、環境の問題が大きい。

【生徒】

- 指導内容が一部わかりにくい。
- できれば平日も専門的指導をしてほしい。

教員（モデル実施クラブの顧問）の声

※教員アンケート（R5.1月実施）から

■モデル実施について

- ・今後も継続していただきたい。
- ・レベル別に分けて、練習を組んであげてほしい。
- ・練習試合が行えないことが、子どもたちの不満になっている。

■部活動地域移行について

- ・勇気をもって、全てのクラブをまず解散する。その上で、再スタートする方がいいと感じています。
- ・一刻も早く全面的に移行していただきたいです。
- ・現場の意見を聞いていただき、地域移行を進めていってほしいです。
- ・自分にソフトボールの経験はなく、専門的なことを教えることができないので、地域の方に教えていただいているのは、非常にありがたいことだと思っています。
- ・地域移行を進める上では、教員と地域の方の連絡やコミュニケーションも大切だと感じています。（専門的な指導ができる教員がいれば、指導の方針などで、違いが出てくる場合も出てくると思う…。）
- ・全ての部活を地域移行にするのは難しいと思いますが、専門的な技術などを教えることができない部活に関しては、地域移行をしていけば、教員の負担軽減、勤務時間の軽減にもなり、良いことかなと感じています。
- ・部活をしたい教員たちの思いはどのような形でフォローしてくださる予定ですか？

27

生徒・保護者（モデル実施クラブ）の声

生徒アンケート、保護者アンケート（R5.1月実施）から

■生徒から

- ・いい練習ができた。
- ・いいサーブの打ち方など一人一人にあったアドバイスをくれた。
- ・楽しいから。他校の人と打ち合いができて楽しかったから。
- ・外部の人が参加することにより、部活動の環境改善にもなる為。
- ・ストロークが良くなった。ボレーができたから。
- ・地域移行はとても賛成です。
- ・同じことばかりする。上級者向けの内容にしてほしい。
- ・試合形式の練習も取り入れてほしい。

■保護者から

- ・専門的な知識を教えて頂けた。
- ・部活動の環境改善にもなる。
- ・熱心に指導していただきました。
- ・連絡手段については、時間を問わず出欠連絡ができて便利だった。
- ・様々な価値観を持つコーチとの出会いも面白いと思います。
- ・子どものレベルは様々で、目標も違うため、その子にあった指導をしてほしい。
- ・年間予定・メニューを事前に配布してもらいたい。
- ・保護者が練習を見る機会がほしい。
- ・有料になるならば、価格や質が気になります。
- ・学校との情報交換や意見交換の時間を頻繁に持ち、連携を図るべき。

28

4 取り組みを振り返って



29

現状 学校部活動の業務と役割

担 当		業 務
教育 委員会	児童生徒 指導室	実態把握、創部・廃部、休日管理、部活動支援員
	学校生活 支援室	部活動費徴収・管理、部活動助成金交付
学校	事務職	部活動費徴収・管理
	管理職	安全管理、ケガ対応、いじめ・トラブル対応
	顧問	
	顧問	名簿作成、スケジュール・場所調整（予定表作成）、消耗品・備品購入、修繕、物品購入手続き（説明、承諾書、申込書等作成、発注、集金等）
		大会引率、大会運営、審判、抽選会（顧問会議）、練習試合（交渉）、実施要項等作成等
生徒指導、仲間づくり、ニーズへの対応・個別対応、練習メニュー作成		
		技術指導

30

部活動地域移行に向けての4つのキーワード

プロデュース
ビジョン・方針
制度設計

コーディネート
関係団体、企業との連携
学校との連携

ノウハウ
運営・管理
ICTの活用

ニーズ
実態調査
イベント等の企画

技術指導だけではない！



31

課題① 部活動地域移行の主な課題

○指導者の確保

指導の質維持・向上、指導者研修（指導の在り方、トラブル対応等について）、兼職兼業、地域団体・企業との連携

○財源の確保

地域企業との連携、スポンサー収入の可能性、受益者負担、ふるさと納税等

○意識改革

民間企業等が主体となるメリット・付加価値、経済的困窮家庭の支援方法、移動問題の解決

○運営主体

指導者派遣、勤怠管理、スケジュール調整、学校とのやりとり、連絡、情報共有、活動場所調整、出欠確認、トラブル対応、保護者・生徒連絡、集金・収納作業、保護者説明会、保険手配、企業・団体等との連携

32

課題② モデル実施から見えてきた課題

- ブロック開催では、参加者の人数が多く手厚い指導ができない。
- 地域クラブ指導者の指導方法が、子どもたちにマッチしていない。

参加者のニーズに応えられないと参加者負担金を集められない

- サンプル数が少ない。
- 指導者だけでは、運営・管理はできない。
運営ノウハウがある運営主体が必要。
- 学校、子ども、保護者、地域への地域移行について情報発信が必要。
- 鍵や熱中症セット、救急セットの保管場所がない。
- 人材の高齢化や運営のノウハウがない体育連盟が運営主体となることが難しい。



33

成果 モデル実施の成果や課題の克服

- 教職員の休日の部活動に係る時間を合計306時間（顧問二人体制）負担軽減することができたことから、満足度を得ることができた。
- 専門的な指導者が指導することで顧問と技術指導のミスマッチを解消し、子どもの自分の技術力向上を実感させることができた。
- 保健スポーツ室や体育連盟、企業等と連携することで専門的な知識のある地域指導者の確保を円滑に行うことができた。
- アンケート調査を行い、指導者に求めることや指導内容についてニーズに合わせた対応することができた。

34

課題解決に向けて今後検証・検討すべきこと



- 参加人数に応じた開催方法の検証
種目による指導に適切な参加人数の把握をする。
- 自分がやりたいスポーツや文化活動をするため、ブロック開催や校区を問わない自由に通うことができる参加方法を検討。
- 指導者研修のあり方、内容の検証
生徒、保護者が地域クラブに求めること、指導の内容（レベルに応じた指導など）を把握し、研修をすることで指導者の質の向上を図る。
- 総括コーディネータ、コーディネーターによる、連絡調整、子どもの安全管理、指導者の派遣管理等についての検証
- 参加者負担の金額設定、支援対象、支援金額等についての検討
参加者負担については大変難しい説明が求められる。今後の指導者謝金の負担の在り方については、国としての方針、事業設計等について注視していきつつ、アンケート等で意見をまとめて整理する。
- 地域移行について、市内の中学校、小学校校長へ情報発信をしていく。
また、指導者、生徒、保護者、教員等にアンケートを実施し、意見を集め、理解や意識改革を行っていく。今後の体制、方向性について検討していく。

令和4年度 スポーツ庁委託事業

「地域運動部活動推進事業」 成果報告書

守口市教育委員会事務局
教育部 学校教育課



MORIGUCHI CITY, OSAKA

目 次

1. はじめに
 - (1) 守口市について
 - (2) 趣旨・目的
2. 令和4年度 of 取組みについて
 - (1) 実践研究内容について
 - (2) 守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会について
 - (3) 実践研究の成果等について
3. まとめ



MORIGUCHI CITY, OSAKA

2

1. はじめに (1)守口市について

人口：142,168人（令和4年11月1日時点）
面積：12.71km²
人口密度：11,186人/km²
学校施設：小学校13校 5,347人
 中学校7校 2,639人
 義務教育学校1校 前期433人 後期201人
 （令和4年5月1日時点）
運動施設：守口市民体育館
 大枝公園
 淀川河川公園
部活動数：運動部104 文化部29
入部率：運動部60.0% 文化部23.2%



MORIGUCHI CITY, OSAKA

3

1. はじめに (2)趣旨・目的

- ◎本市では、令和3年度スポーツ庁委託事業「地域運動部活動推進事業」の拠点地域として、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現する」ため、課題を洗い出し、解決に向け実践研究を行った。コロナ禍の影響により、当初の計画通りになかなか進めることができない状況はあったが、事業運営組織を2つのパターンで取組むことができ、参加している生徒のアンケートからも満足度の高い結果を得ることができた。
- ◎一方で、保護者への理解促進や、費用負担の在り方、事業を実施できる部活動が限られていることなど、取組むべき課題は残っている状況であることから、令和3年度の拠点校及び実施部活動を中心として、他の中学校等の部活動への拡充をはかるとともに、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現する」という目的を継続しつつ、課題解決に取組み、その過程並びに研究成果を府内及び全国へ普及していく。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

4

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

①達成目標及びその検証

【目標】

- 令和3年度事業から拠点校・実施部活動の拡充を行う。
- 生徒の満足度や専門的指導の充実度の向上につながるように取り組む。

【目標の検証】

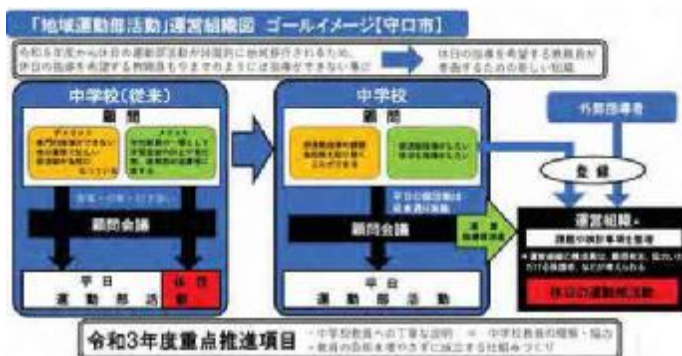
- 拠点校を拡充することができたか
- 実施部活動を拡充することができたか
- 参加生徒及び保護者、拠点校教職員、運営団体指導員等へのアンケートや聞き取りを実施
- 「守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会(以下、「部活動検討委員会」)による協議



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

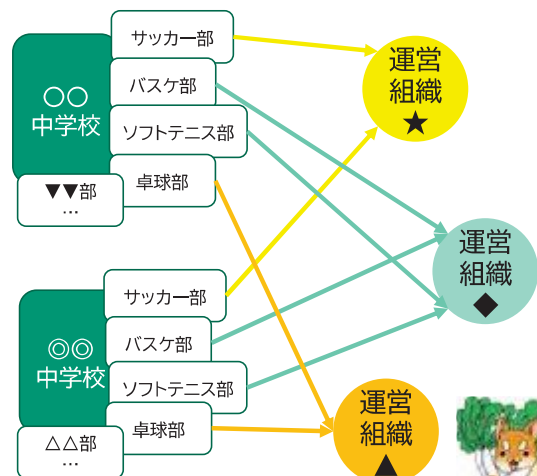
②目標設定の背景

下記のゴールイメージのもと令和3年度事業実施で運営主体2団体、拠点校2校、3部活で実践することができた。



しかしながら、競技によっては、部員数の少なさからゲーム形式の練習をできない状況があった。
また、1つの運営組織で当該中学校の部活動をすべて運営する団体を見つけることは難しい状況があった。

令和4年度については、1競技において拠点校を複数校にして合同実施できること、実施部活動を拡充することで運営組織の拡充を図ることができると考えた。



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織1 地域の少年サッカーチームとの連携



リトルFC

- ・1985年より八雲小学校(八雲中学校区)を拠点にサッカー指導を始める
- ・八雲中学校区出身の指導者を中心に活動
- ・守口市内では、他に守口小(第一中学校区)、下島小(八雲中学校区)、淀川河川公園、大枝公園で活動
- ・八雲中サッカー一部への外部指導歴あり



八雲中学校

生徒数:249人

教職員数:27人

部活動数:運動部8 文化部3

・令和3年度事業実施

・部員数:3年5人 2年13人 1年1人



第一中学校【令和4年度新規】

生徒数:471人

教職員数:33人

部活動数:運動部9 文化部3

・部員数:3年15人 2年8人 1年7人

・リトルFC出身者の部員が多い。

※下線部は実践研究参加対象(以下同様)

・八雲中とは校区が隣接している。

実施部活動	サッカー部
主な活動場所	八雲中学校運動場
実施頻度(原則)	毎週日曜日9時~12時
運営補助員数	2人 全体統括者と指導の運営補助員
指導者数	登録11人(うち有資格者1人) 1回あたり1~2人
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	リトルFCで加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)
その他	リトルFCの小学生と一緒に活動

MORIGUCHI CITY, OSAKA



7

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

リトルFC【八雲中学校・第一中学校】



小学校高学年と合同練習

成果

- 小学校段階から系統的な指導
- 練習に必要な人数を確保
- OBによる指導者の確保



MORIGUCHI CITY, OSAKA

8

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織2 企業との連携



幼児活動研究会(株)(以下、「コスモスポーツクラブ」)
 ・昭和47年に設立
 ・園児・小学生への体育指導や保育所の運営、幼稚園・保育園経営コンサルティング等子どもに携わる幅広い事業を行っている。
 ・守口市内の園所においても正課体操指導を実施している。



さつき学園
 生徒数:249人 教職員数:27人
 部活動数:運動部6 文化部2
 ・令和3年度事業実施
 ・女子バスケットボール部員数:9年9人 8年2人 7年7人
 ・男子ソフトテニス部員数:9年3人 8年2人 7年7人
 ・女子ソフトテニス部員数:9年11人 8年6人 7年6人
 ・女子ソフトテニス部については部員数が多く、大会参加も多かったため、大会参加と自校での練習に分かれて行うことが多々あり、部活動顧問が両方見れない状況があった。

実施部活動	女子バスケットボール部 男子ソフトテニス部 女子ソフトテニス部【令和4年度新規】
主な活動場所	さつき学園体育館・グラウンド
実施頻度(原則)	毎週土曜日9時~12時
運営補助員数	1人
指導者数	バスケットボール 登録6人 ソフトテニス 登録5人 いずれも1回あたり1~2人で指導
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	コスモスポーツクラブで加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)



9

MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

コスモスポーツクラブ【さつき学園】



成果

- 技術面やメンタル面等で習熟した指導
- 練習メニュー等、平日の部活動へも好影響



10

MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織3 守口市スポーツ協会【令和4年度新規】との連携



守口市スポーツ協会(守口市卓球協会)

・昭和29年に結成した守口市レクリエーション協会連合と昭和30年に結成した守口市体育協会が昭和42年合併し、守口市体育連盟が結成される。平成30年にNPO法人守口市スポーツ協会が設立し、令和4年度時点で21団体が加盟している。

・令和4年度活動方針に学校部活動との連携を示しており、学校部活動と関係のある競技団体もある。

(3)スポーツを通じて青少年の育成をはかるとともに、指導者の育成に取り組む
(略)市教育委員会とも協力しながら、部活動や放課後指導をはじめとして子どもたちが積極的にスポーツを楽しめる環境づくりも提案し、目指して参ります。(令和4年度活動方針より抜粋)

実施部活動	男女卓球部【令和4年度新規】
主な活動場所	さつき学園体育館
実施頻度(原則)	毎週土曜日9時~12時
運営補助員数	1人
指導者数	登録9人(うち有資格者2人) いずれも1回あたり1~2人で指導
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	市卓球協会で加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)



さつき学園

・男子部員数:9年12人 8年11人 7年5人

・女子部員数:9年3人 8年5人 7年0人

・卓球部は市内においてさつき学園のほか2中学校のみ(女子はさつき学園のみ)である。

・さつき学園として、校内の部活動をすべて地域移行することを当初から希望していた。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

11

2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

市卓球協会 (市スポーツ協会) 【さつき学園】



成果

- 技術面やメンタル面等で習熟した指導
- 練習メニュー等、平日の部活動へも好影響
- 地域の社会人等による指導者の確保



MORIGUCHI CITY, OSAKA

12

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

①目的

守口市における地域運動部活動推進事業を実施するにあたり、関係者の合意形成、実践研究の実施方針の決定、拠点校における実践の共有や検証、域内への普及方法の検討などを行う。

②委員構成

	委員所属	委員職名	委員名
委員長	守口市教育委員会事務局教育部学校教育課	課長	棹本 達也
副委員長	守口市市民生活部生涯学習・スポーツ振興課	課長	宮垣 義隆
拠点校	守口市立八雲中学校	校長	寺本 毅
	守口市立さつき学園	副校長	原田 英和
地域	守口市立八雲中学校区学校運営協議会	委員	尾崎 英和
	守口市立さつき学園学校運営協議会	会長	杉本 清
実施団体等	NPO法人守口市スポーツ協会	理事長	寺村 宏
	NPO法人守口市スポーツ協会	副理事長	吉富 啓文
	リトルFC	代表	岩鼻 昭憲
	幼児活動研究会株式会社コスモスポーツクラブ	関西ブロック次長	関内 健

アドバイザー：小林 博隆
大阪体育大学体育学部 スポーツ教育学科 准教授



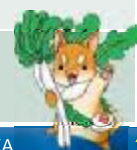
MORIGUCHI CITY, OSAKA

13

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

③検討事項(全5回)

	検討事項
第1回(9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・(報告) 守口市立中学校並びに義務教育学校の部活動の状況について ・(報告) 令和3年度の地域運動部活動推進事業について ・(報告) 令和4年度の地域運動部活動推進事業の取組み状況について ・(協議) 市部活動検討委員会の予定について
第2回(10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・(報告) 地域運動部活動の取組み状況について ・(協議) 各取組みにおける目的・目標について
第3回(11月)	<ul style="list-style-type: none"> ・(報告) 地域運動部活動の取組み状況について ・(協議) 各取組みにおける指導者の確保について ※教職員の兼職兼業含む
第4回(12月)	<ul style="list-style-type: none"> ・(報告) 地域運動部活動の取組み状況について ・(協議) 各取組みにおける費用について
第5回(1月)	<ul style="list-style-type: none"> ・(報告) 地域運動部活動の取組み状況について ・(協議) 報告書の内容について



MORIGUCHI CITY, OSAKA

14

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

第2回 各取組みにおける目的・目標について 委員の意見(一部)

- ・最近、多様性の中で、生涯にわたって楽しむとか、あるいはその競技自体が楽しいんだということで参加する子どもたちもいる。どう持っていくのかなというところは正直悩ましい。今後どう変わっていくべきかというところを含めて、我々が考えていく課題。
- ・学校における部活動に関しては、勝つことも1つの目標であって、いろんな目標があっていいと思う。
- ・まず一人の人間として成長していこうという考えがある。目標はサッカーの部分、サッカー以外の部分も、特に人間として成長して行って、10年、20年後とか30年後、この地域に貢献できる人間性を築いて行ってほしい。
- ・失敗したときに自分の力で立ち上がったたり、友達と衝突したときにそれを修繕できる力を、という思いから、いつも失敗をどんどんしなさいと指導している。
- ・スポーツの果たす意義や役割を考え、生涯スポーツの普及に向けた環境づくりに取り組んでいる。
- ・報道の中で、今の中学校の部活動で期待、重視するものは何かという質問に対して、ベスト3の答えが心身の成長、達成感や充実感、そして仲間づくりが上がっていた。コミュニティスクールの最大の狙いが、学校教育で生きる力の育成、また豊かな学校生活の実現を目指しているの、クラブ活動をいい形でやれば、それにまさしく合っていると考えている。

など

【共有事項】

学校教育で生きる力の育成、また豊かな学校生活の実現を目指しているの、地域移行された活動でも生徒たちの人間性を高めていくことが必要。



15

MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

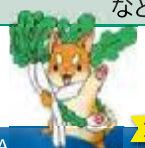
第3回 各取組みにおける指導者の確保について ※教職員の兼職兼業含む 委員の意見(一部)

リトルFC	コスモスポーツクラブ	市スポーツ協会
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生を中心に活動に意欲的に来てくれる方を派遣している。 ・活動人数が増えて更なる指導者の確保が必要となっても、今のところできない事はないが、想定を超えて人数が増えた場合、対応に困るというはある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関西ブロックの社員を対象に希望調査を実施し、参加への意欲や意向も確認して派遣している。 ・他校に広げるとなると指導者の確保は厳しくなるのかなと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球協会の理事の方を中心に技術的にもレベルの高い指導者を派遣している。 ・他校区に広げたり、他の種目の部活動に広げる場合については、21団体あるので、いつでも協力体制出来るような状況と考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・今の学校の指導のあり方というのが大きく変わっており、兼職兼業は非常に難しいだろうと正直思っている。 ・教師の本業は授業だと思う。クラブ活動は日本独特のある意味ではいい形。これからの流れというのはきれいに分けていかなかったらいけないかなと思う。 ・部活動の指導は教師がやるべき、という風潮は感じられつつも、社会の変化の中、授業や学校を取り巻く様子が大きく変わっていることから、今後も継続して教師が担っていくことについては難しさもある。指導者の数が足りないから教師がやるべきとか、そんな含みを残すとあまりいい方向ではないと思っている。 ・部活動を指導したい先生には、業務がきちっと遂行できていることを確認した上、認めていかなければならないのではないかな。 		

など

【共有事項】

教職員の兼職兼業ありきで進めるのではなく、地域移行の方向性にあった形で指導者を確保していくべき。



16

MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

第4回 各取組みにおける費用について 委員の意見(一部)

- ・子どもたちのニーズに合った場を用意することとともに、事業者の正当な対価の理由にもつなげるため、指導するレベルによって対価に差をつけるのは、受け入れやすいのではないかと。
- ・これから地域移行を進めていく上で、指導者は必ず複数必要だと思っているので、そういった部分ではより一層、費用がかかる。
- ・学校はボランティアという感覚が根強くあるが、1人の大人を休みに拘束して、それに見合ったお金は準備してやるべきでは。
- ・部活動は、個人負担の部分はあるものの、指導者の部分のかかってくるお金、あるいはいろんなものがかかっていること自体は見える化していった上で、全体で考えていかなければならないのでは。
- ・これまでに、対価によって、指導する人の集まり方が大きく変わると実感したことがあった。
- ・この学校は4回できたが、ほかの学校は1回しかできなかったなど、各学校の活動が変わってくる一方、金額が一律ということがあれば、不満が出ると思う。
- ・お金が発生することで、指導者の意識も向上していくこと、また専門性を保つためにはお金が必要であることがある一方、支払いに対するサービスの質が問われることもあるだろう。

【共有事項】

費用負担については、公費で賄っていく必要性和保護者の方に理解を得て保護者からの負担をいただくことの2つの視点がある。今後も子どもたちが楽しく活動できるように、仕組み作りの議論が必要。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

平日の学校部活動と休日の地域部活動の連携について

リトルFC	コスモスポーツクラブ	市スポーツ協会
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の顧問から、練習メニューの相談を受けることや、平日の練習内容を休日の練習に反映させたりするため、方向性を確認したりするなど連携を図ることで参加生徒が活動しやすいようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動検討委員会の中で出た話題から、顧問を通じて、参加生徒と練習内容を中心に書き込む「練習ノート」のやり取りを行った。練習内容の共有にとどまらず、参加生徒自身の指導に対する理解が深まったり、顧問も休日の様子が把握できたりするなど、より良い取組みに向けてプラスとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習の流れの違い等で参加生徒が困惑しないよう、練習内容の共有や参加生徒の様子について顧問と共有しながら進めている。 ○ 安全管理等については学校部活動と同様の対応ができるようマニュアル等を共有したい。

拠点校

〈守口市立八雲中学校〉〈守口市立第一中学校〉

- クラブ数が減少している状況の中、滑り出しから順調ということではなかったものの、活動を維持できることが子どもたちにとって良いことだと感じており、学校としてもありがたいと考えている。

〈守口市立さつき学園〉

- コスモスポーツクラブや市スポーツ協会から来ていただいている中、競技へ取り組む姿勢の面も含め、専門的な指導が行われていることについて、生徒も顧問も喜んでいて、事業について今後も進めてもらいたい。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

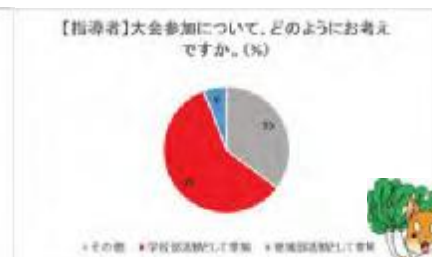
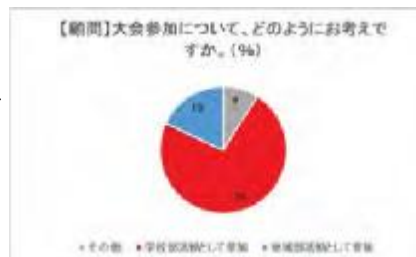
①アンケート結果より1

【複数校合同での地域部活動実施について(生徒・保護者)】

- ・ 生徒、保護者いずれも肯定的意見が多い
- ・ 反対の意見では、移動面や人数が増えることで配慮が行き届かなくなることを危惧する意見がある

【今後の大会参加について(顧問・指導員)】

- ・ 顧問教員では、「学校部活動として参加」の意見が多い
- 一方で、指導員の方に比べ、「地域部活動として参加」に対して肯定的に捉えている



MORIGUCHI CITY, OSAKA

19

2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

①アンケート結果より2

【費用面について(保護者アンケートより)】

- ・ 0円と回答された数が最も多いものの、金額の差異はあれど、費用負担が発生することについては概ね妥当であると捉えている状況が見られた
- ・ 意見としては、

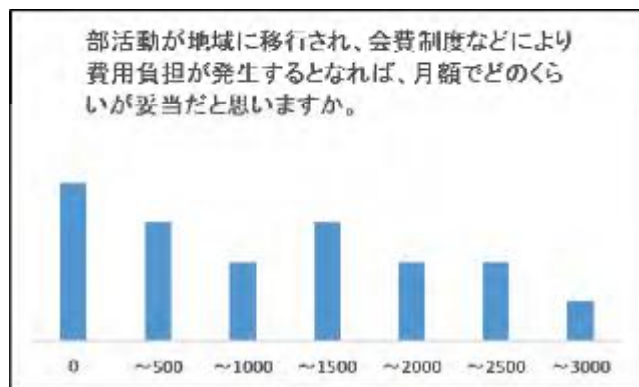
義務教育の部活動に支払い義務がない

本来教員が担うべきところをお願いしているのだから、学校や市が払うべき

部活動として考えるのであれば、費用を取るのをおかしい

とある一方、

ボランティアではないので、指導を受けている以上は払うべき、といったものも見られた



MORIGUCHI CITY, OSAKA

20

2. 令和4年度の実践研究の成果等について (3)実践研究の成果等について

①アンケート結果より3

【その他ご意見等(生徒・保護者・顧問・指導員アンケートより)】

- ・保護者の方の多くは指導に対する感謝の声
- ・一部の保護者から、部活動によっては、土日に大会があるため、地域部活動に参加できない場合がある、との声があった
- ・生徒からは、学校部活動と地域部活動の連携を深めて、練習や試合をより充実させたい旨の声があった
- ・顧問教員について、肯定的な意見が多い一方、現在の調査研究においては、(様子を見るため学校へ詰めている状況から)以前と変わらないと受け取っている教員もいる
- ・指導員・運営補助員について、やりがいを感じていただいている一方、国の補償や人材確保について懸念する声がある



MORIGUCHI CITY, OSAKA

21

2. 令和4年度の実践研究の成果等について (3)実践研究の成果等について

②成果と課題のまとめ

【成果】

- 運営団体及び実施部活動を拡充するとともに2校による合同実施を研究することができた
- 運営団体の工夫により平日と休日の指導の連携を図ることができた
- 実施部活動における生徒・保護者・教員の部活動改革について理解を進めることができた
- 部活動検討委員会において目的・目標の共通理解をはかるとともに教職員の兼職・兼業も含めた指導者の確保や費用負担の在り方について多面的に協議を行うことができた

【課題】

- 実施部活動以外の生徒・保護者への理解促進とその方法
- 実施部活動拡充に向けて、運営団体の確保及び指導者の確保
- 保護者の費用負担の在り方



MORIGUCHI CITY, OSAKA

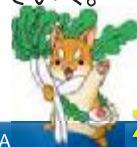
22

3. まとめ

【どのようにして、それぞれの課題を克服していくのか】

令和4年度実施部活動について事業を継続しつつ、地域移行に係る計画の策定を行う

- 実施部活動以外の生徒・保護者への理解促進とその方法
- 実施部活動拡充に向けて、運営団体の確保及び指導者の確保
 - ☞ 事業継続により、拠点校の拡充を図ることができ、部活動改革に関わる生徒・保護者を増やしていく。
 - ☞ 地域移行に係る計画の策定に向けた会議の開催により、運営団体との連携を図ることができ、実施部活動の拡充についても検討することができる。
- 保護者の費用負担の在り方
 - ☞ 現時点で、実施部活動について保護者への費用負担は考えていない。地域移行に係る計画の策定において、公費で賄っていく必要性等も視野に入れつつ、どのように進めていくのか検討していく。



3. まとめ

【どうしたら関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制を構築できるか】

- 「生徒のスポーツライフの充実」「社会全体で、生涯を通して、スポーツに親しむ意識の醸成」という共通視点を持つこと
 - ・ 学校部活動だけでは、生徒の様々なニーズに応えることができなくなっている
 - ・ 中学生段階だけでなく、幼児から大人までを対象として考えることも必要

【どのような支援が拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか】

- 学校に対しては休日の地域移行だけでなく、平日における学校部活動との連携を視野に入れること
- 運営団体に対しては、活動場所の確保や学校施設の備品等の共有など、学校部活動として活用しているものの共有
 - ・ 地域移行により、学校部活動と地域部活動が完全に切り離されるわけではない

【どうすれば改革の取組を円滑に他地域に普及していけるか】

- 地域移行については、種目単位で進めていくという方向性のもと、教職員に理解促進を図っていく
 - ・ 学校内でも種目によって、運営団体や指導員の確保など地域移行への課題は様々
 - ・ ひとつの学校でできた種目についてはそこを拠点に拡充していけると考える

